

論文審査の結果の要旨

氏名：瀬谷 恵

専攻分野の名称：博士（医学）

論文題名：超早産児における 6 歳までの身長推移と低身長症の発症リスク因子

審査委員：(主査) 教授 上原 秀一郎

(副査) 教授 川名 敬 教授 石原 寿光

教授 中山 智祥

本研究は超早産児の在胎週数に比して小さいことを示す **small-for-gestational age (SGA)**児、と **non-SGA**児について、それぞれ暦年齢 6 歳までの身長推移と暦年齢 3 歳と 6 歳の低身長症における新生児期リスク因子を明らかにしたものである。

具体的には 182 人の超早産児を対象とし、**SGA**群と **non-SGA**群で経年的に身長 **Z-score** と身長がキャッチアップした児の割合を比較し、また 22 の新生児期の因子と暦年齢 3 歳時、6 歳児の低身長症の関連を単変量および多変量解析によって同定した。

超早産児では **SGA** 児ほどではないが、**non-SGA** 児でも暦年齢 6 歳まで低身長症であり、そのキャッチアップした児の割合は 3 歳で 86%、6 歳時で 93%、全体でもそれぞれ 78%、90%であった。**SGA** で出生することそのものが、暦年齢 3 歳時と 6 歳児の低身長症と関連しており、6 歳では在胎 25 週以下で出生することも低身長と関連していることが明らかとなった。超早産児において、**SGA** 児また在胎週数が小さい児、とくに在胎 25 週以下の児においては、将来の低身長症に注意することが必要であることを示した。

以上のように、身体的成長と暦年齢 3 歳と 6 歳における低身長症の新生児期での危険因子を明らかにし、かつ十分な症例データを集積した観察研究であり、内容は学位に相応しいと考えられた。集積したデータも超早産児という特殊な集団についてであり、臨床的には意義深い研究と考えられた。

よって本論文は、博士（医学）の学位を授与されるに値するものと認める。

以 上

令和 6 年 2 月 28 日